

JALSG Young Investigator ASH Travel Award 2017 参加報告

NTT 東日本関東病院 血液内科 林田裕樹

この度は、JALSGのご支援を賜り、2017年12月8日から13日までアトランタで開催されたASH2017に参加させていただきました。血液内科として働き始めて間もない私にとって、今回は初めての国際学会であり、大変刺激的な経験をさせていただきました。JALSGの先生・事務局の方々に改めて感謝申し上げます。簡単ではございますが、参加のご報告をさせていただきます。

予め配信されたASH専用アプリでは興味のある講演を検索でき、Summaryも読むことができました。教育講演を中心に拝聴するように決め、一部興味をもった一般講演も選んでいきました。

日程の都合上、直行便が利用できず、ヒューストンを経由してアトランタに向かいました。アトランタは稀に見る大雪で飛行機の到着が遅れたものの、何とか予定日に現地に到着することができました。

現地で最初に驚いたことは会場の大きさと参加者の人数でした。世界を肌で感じ身が引き締まる思いでした。学会は朝7時台から夕方まで濃密なスケジュールで、すべてを吸収しきることは出来ませんでした。帰国後に再度見直せるようスライドの内容をできるだけ記録するようにしました。教育講演に関してはプログラム冊子が配布され、講義の内容がReview論文のような形式でまとまっており、帰国後も少しずつ読み返し参考にしております。MMの治療戦略、DLBCLの中枢神経再発リスクの評価法など、血液内科疾患についての話題から、血小板減少の鑑別、DVTの管理など他科の領域に関わる内容まで、25分の枠の中でコンパクトに講義があり、勉強になる内容ばかりでした。

Plenary Sessionや一般講演でも興味深い内容を聴くことができました。bcl-2阻害薬Venetoclaxがt(11;14)転座を持つMyeloma cellでアポトーシスを誘導し、実際にBortezomibなどと併用試験が行われていること、Hodgkin lymphomaに対しbrentuximab vedotin + AVD療法が既存のABVD療法より良好な成績を残したこと、TPOがIFN- γ とheterodimerを形成することが発見され、EltrombopagがAAに奏功するメカニズムの謎が解明されたこと、など分野を問わず最新のトピックに触れることができました。

ポスターセッションでは軽食を片手に分野ごとにまとめられたポスターを歩いて見て回りました。ポスターの前で研究内容について楽しそうに説明してくれたイギリスの研究者が印象的でした。自分もこのように世界に熱く語れる研究をしたいと痛感しました。

3日目には、JALSGの先生方と他の受賞者との懇親会も開いていただきました。若い時期に世界に触れることでモチベーションに繋げて欲しいという思いでASH Travel Awardだけは続けている、というお言葉が深く記憶に残っております。将来少しでも恩返しができるよう日々努力を重ねたいと存じます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった、JALSGのスタッフの皆様に、心より御礼申し上げます。